

# 「組合事業発展の原動力として」

## 森 将喜・東京冷凍空調事業協同組合 副理事長 に聞く

蓄熱槽一体型の氷蓄熱システムとして、そのユニークな着想と省エネ性能、省工事が注目された「エコアイスミニぐっぴー」がこの程出荷台数一万台を突破した。ここ数年、「ぐっぴー」の販売・施工で業績を倍々ゲームで伸ばしてきた東京冷凍空調事業協同組合の事業への影響は大きいものがある。森 将喜副理事長にこの氷蓄熱システムとの関わりのきっかけ、取り組みの軌跡、今後の展望などを聞いた。

— 「エコアイスミニぐっぴー」がこの程出荷台数一万台を突破しましたが、組合の事業の発展と大いに関連があると思われませんか。

(森) 「初めて“ぐっぴー”の施工と取り組んだのは平成14年のことだった。当時、都内A区長の英断で区内の小中学校に空調を入れることになった。区内の業者が受注したが、予算的に対応できず、電力会社に相談があり、(株)イズ及び、K社の協力により当組合で空調設備工事の施工することになった。あらかじめ聞かされていたが、予算は厳しいものだった。しかし、3校33台という、初めての受注であり“名刺代わり”だと思って工事を完成させた。結果は大いに面目を施し、喜ばれた。結果的に指値による受注で、組

合員各社が共同受注の形をとり、赤字分も当組合にて負担した。

その後、M区、K区、T区、S区などの各区で受注した。営業及び提案は主として(株)イズが担当し、組合は現場調査、設計、積算、施工などを担当した。」

— これまで累計で何台くらい施工したことになりますか？

(森) 「これまで受注した規模で大きいのは平成19年1区の2,120台だったが、これまで組合が手がけた台数合計は7000台を超えている。工事は5～6月の短期集中が多く、1日に作業員1,000名を動員することもあるほどで、この機動力を評価してくれるお施主さんもあるほどだ。又、“換気もぐっぴー”とネーミングした室内機に全熱交換機を組み込んだ初めての氷

蓄熱システムを東京・清瀬の東星学園に設置したが、この設備は(社)日本冷凍空調設備工業連合会の“優良省エネルギー設備顕彰”を受賞している。工事の殆どが学校の為、空調機器設置場所への配慮のほか、大容量の受電設備の追加設置などから各所轄機関への届けなど多くの付帯工事や事務処理を伴っている。組合の年間売り上げは倍々ゲームで伸び、昨年は43億円となったが、組合設立当初注力したフロン回収はほとんど無くなり、“ぐっぴー”を中心とした空調工事が大部分を占めている。従って、“ぐっぴーと(株)イズとの出会い”は組合にとって重大な出来事だったといえ、この巡り合わせに感謝している。

組合が施工している物件も最近は一層物件が多くなり、さらにはプロポーザル方式により設備、システムの採用が決まるようになってきている。

— 今後の抱負、計画などをお聞かせ下さい。

(森) 「組合ではこのほど(株)アクアエコテックスを通じて、米国のアトマイジン



森 将喜氏

グ・システム社の超微細噴霧システム“コールドフォグ・システム”の日本国内総発売元となった。このシステムは25年の長寿命を保障する“ルビーオリフィスノズル (US特許)”を採用し、1～15ミクロンの霧を噴射するシステムで印刷工場から病院、さらには半導体工場まで幅広い分野で応用が期待されている。こうした超微粒子の霧は他社にはないもので、世界的にリードしているオンリーワンシステムだ。“コールドフォグ”の販売開始には、組合員の期待も大きく、第二の“ぐっぴー”に発展することを期待している。」

### 組合が施行したぐっぴーの設置例

